



おねんぎだより

令和7年12月1日(月) NO. 4

豊橋市幼年期教育学習会

「幼保小の連携及び接続の理解と架け橋期のカリキュラムのあり方」

講師 豊橋才能教育こども園理事長・元相山女学園大学教育学部教授

齋藤 善郎 先生

豊橋市幼年期教育学習会が、8月26日にアイプラザ豊橋にて行われ、講師の齋藤善郎先生より「幼保小の連携及び接続の理解と架け橋期のカリキュラムのあり方」と題したご講演をいただきました。お話いただいたポイントを紹介します。

幼児期から児童期に育てたい力とは何か

① 幼児期の教育と小学校教育の違い

- 幼児期…経験カリキュラム(一人ひとりの発達に応じて)
遊び(子どもの興味・関心)を通した総合的な指導
無自覚な学び(楽しいこと好きなことに集中することで学んでいく)
- 児童期…教科カリキュラム(学問の体系・具体的な目標を重視)
目標・内容によって選択された教材による指導
自覚的な学び(与えられた課題を自分の課題として受けとめ、計画的に学習を進める)

② 共有したい三つの資質・能力

- ・環境(人的環境…先生や友達が行っているところを見る、物的環境…やってみたくなる物を置いておくなど)の中で気づく体験、できたという体験→知識技能の基礎
- ・試行錯誤をしながら工夫する→思考力・判断力・表現力の基礎
- ・最後までやり遂げようとしていたり、やりたいことが生まれたりする→学びに向かう力

③ 架け橋期プログラムで示されている内容

- ・社会に開かれたカリキュラムの実現「何を学ぶか」→「何ができるようになるか」
- ・ウェルビーイングを保障するカリキュラムの実施
- ・発達の連続性の重要性(一つのことができるためには、その前段階として習熟していなくてはならないことがある)
- ・言語や数量との出会い(生活の中で触れる。必要感から親しみを持つ。感覚的に分かる。)
- ・人や物との関わりを通した感情(協働性・多様性への理解・利他性・社会貢献意識など)

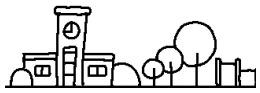


参加者の声



子どもの思いをくみとりながら考えていくことは、どちらも変わらないことを再確認できた。架け橋期が大事だと1年生担任だけではなく、小学校教諭の誰もが知っておくことが大事だと改めて感じた。
(小中学校から)

いろいろな違いがあることはわかっていたが、学びの形態として、幼児期の無自覚な学びと児童期の自覚的な学びとのはっきりとした違いを改めて知ることができた。卒園する頃の子どもたちには、意識して学ぶことへの興味が芽生えるようにしていきたいと感じた。
(幼保子ども園から)



小学校と幼保こども園の交流の様子



【富士見小学校と富士見幼稚園の交流の様子】



みんなかわいいな。来年入学してきたら、たくさん話しかけてあげたいな。



富士見小学校では、5年生の総合の授業で福祉について学習します。その学習の中で、富士見幼稚園の年長の園児を学校に招き、一緒に遊んだり、交流を行ったりしました。5年生の児童と年長の園児で交流を行うことで、次年度入学する際には1年生と6年生として再会することができます。園児にとっては、一緒に遊んでくれたお兄さんお姉さんとまた会えることが入学の楽しみの一つとなり、5年生にとっても顔見知りになった児童に対して愛着がわき、新1年生に先輩として優しく接したいという気持ちを高めるよい機会となりました。



小学校には優しいお兄さんお姉さんがたくさんいるんだな。また、会いたいな。



ここに逃げればいいんだな。お兄さんやお姉さんもいるから、安心だな。



保育園の子も頑張ってるから、よい手本を見せたいな。困っていたら、助けてあげたいな。



磯辺小学校と磯辺保育園では、6月20日に洪水発生を想定した合同避難訓練を行い、全校児童と園児が磯辺小学校の校舎に垂直避難をしました。この合同避難訓練は、校舎と園舎が互いに隣接していることから毎年行っています。同時刻に放送で避難指示を流し、小学校と保育園で協力して訓練を行うことで、避難経路の安全確保のために必要なことを再確認することができました。教員と保育士の協力体制の確認をすることにもつながりました。

2つの交流のように近隣の小学校と幼保こども園の子ども同士の交流や先生同士の交流を積極的にすすめ、学びの連続性を確保するためにどのような工夫が必要か、考えていきたいですね。